

ここに注目！ **商業集積と居住空間の整備を進め、被災避難者の受け皿として、早期帰還に貢献する。**



ポイント

東日本大震災前から、「安心・安全なまちづくり」や、20年以上続く「栄町ナイトばざー」などの取組により、生活・買物利便性の向上やまちなかの賑わいづくりに寄与。発災直後は、混乱の中での臨時災害FM局の開局など、コミュニティの拠り所としての役割を果たした。避難した市民の帰還が依然として進まない状況の中、商店街近くの復興公営住宅の整備を受け、商店街への回遊・誘導拠点となる商業施設の整備を検討するなど、復興への期待に応える様々な取組を進めている。

[商店街概要及び取組の背景]

目指せ！「復興の旗頭」「市民の早期帰還」

栄町商店街振興組合は、昭和60年に設立され、東日本大震災を乗り越えて現在に至っている。商店街は、JR原ノ町駅から市役所に伸びるメインストリートを中心に形成されており、震災前は「安心・安全なまちづくり」を進めながら、相双地方の母都市である南相馬市の経済を支えてきた地域型商店街である。震災後は、復興の旗頭となり、様々な障害と向き合いつつ、避難した市民が早期に帰還できるまちづくりを進めている。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

目に見える町外コミュニティの実現

栄町商店街振興組合は、コミュニティホールや共同駐車場、LED街路灯、防犯カメラ、AEDを設置するなど、生活・買物利便性の向上に努めてきた。また、震災のあった平成23年3月を除き20年以上継続している「栄町ナイトばざー」は、地域に定着し、多くの住民の参加を得ており、今後ともこうした取組を推進することにより、住民の帰還を促進することとしている。

また、商店街の隣接地に復興公営住宅が整備される



被災避難者受け入れの拠点として整備が進む商店街

ことを受け、避難者を迎え入れる体制づくりのためのNPO法人の設立や、復興公営住宅から商店街への回遊・誘導拠点となる商業集積と居住空間の整備を検討するなど、目に見える町外コミュニティのモデル事例の実現を目指している。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

住民に寄り添った様々な取り組み

文化・生活環境面の向上を図るために平成6年度に商店街によって設置された「しらゆりコミュニティホール」は、会議、講演会、カルチャー教室、イベントに広く利用してもらえるよう割安の料金設定となっている。また、併設の共同駐車場「しらゆりパーキング」は自走式2階建ての立体駐車場で、商店街で買い物をすれば無料で利用できることから、違法駐車など交通問題の解消をはじめ商店街エリアの生活・買物利便性の向上に寄与している。

「栄町ナイトばざー」は、開始当初は午後7時にスタートしていたが、住民の意見や要望を取り入れ、現在では午後2時からのスタートとなっている。このように住民に寄り添いながら改善実施しており、長年にわたって愛されるイベントとなっている。

[実施体制]

目標は民間主導の復興まちづくり

栄町商店街振興組合では、毎月開催している「栄町ナイトばざーる」の企画のため定例会を開催、チラシ作り、ホームページブログの更新を行っている。特に、震災後は、地域復興に向けたイベントを継続的に進めるため、国、県、市や全国商店街振興組合連合会、福島県商店街振興組合連合会、原町商工会議所の支援や協力を得てスタンプラリー、買い物スタンプ事業、コミュニティサロン事業、臨時災害FM事業等の実施体制を事業毎に組み、商店街の枠を超えた協力者の参加も得て推進してきた。

また、昨年の地域商業再生事業(商店街等構造改革調査分析事業)では、市内小学校8校の協力を得たアンケート調査、ワークショップを通して地域ニーズを再認識し、NPO法人設立の大きな契機となった。

今後は、町内会、NPO法人、他商店会等と復興協議会を設立し、生活、福祉、商業が一体となった民間主導の復興まちづくりに取り組むことにしている。

基本データ

所在地：福島県南相馬市原町区

会員数：26名

店舗数：60店舗

関連URL：<http://souma-haramachi.com>



子供たちにも安心・安全な遊び場を提供



キーパーソン

栄町商店街振興組合
理事長 片山 高明

元気を発信

私は、栄町商店街振興組合の3代目理事長ですが、初代齋藤京市氏、2代鳥居朋信氏と共通した考え方は、相手を思い、尽くしていく姿勢でした。そして、年齢に関係なく組合員を「〇〇ちゃん」と愛称で呼び、全員同じ目線で人間関係を作ってきたことでした。

こうした関係は、伝統として受け継がれ、現在も全く同じで、これまで行ってきたイベントや各種事業が全て成功できた大きな理由の1つになっていると考えています。特に、震災以降、原発問題で商店経営が立ち行かなくなる厳しい環境が続いていますが、この3年間、振り返らずみんなで走って、元気である姿を発信することが大切だと思っています。

コミュニティ再生に向けて

地域商業再生事業(商店街等構造改革調査分析事業)を実施した中で、小学生を持つ保護者の一番の要望は、「きれいな空気と安心して暮せる環境の街」でした。市内小中学校の半数が未だに避難中であることを考えたとき、もっともなことだと思います。普通にどこにでもある生活環境が失われている現実は、大変重いことです。

そこで、商店街再生を考えたとき、商業者ができること、地域生活者ができること、行政ができることを明確にして、お互いに連携するための接着剤の役割を商店街が担うことができると考えています。

南相馬市の中心部商店街は、商業集積はもとより生活、福祉、医療が一体となった民間主導の拠点づくりを目指し、避難地域・受け入れ地域が連携してコミュニティ再生、復興まちづくりに向かって進んでいきたいと考えています。